

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : 父と母を敬いなさい (エフェソの信徒への手紙 6 : 2)

保育目標 : 0歳児	・先生と安心して過ごす中で、園生活に慣れていく。
1歳児	・安心して、保育者と好きなものを見つけて遊ぶ。
2歳児	・周りの大人に十分に受け入れられて、思いを表現する。
3歳児	・友だちや先生と好きなことを見つけて遊ぶ。
4歳児	・感じて考えて自分の思いをもって生活する。恵みを喜び、神さまに感謝する。
5歳児	・自分のやり方で動き、様々なことに興味をもつ。恵みを喜び、神さまに感謝する。

園庭を見渡すと様々な木々や草花たちが子どもたち一人ひとりを、まるで笑顔で迎えているかのようにそれぞれの実や花、葉を色とりどりに飾っています。また、畑に植わっているジャガイモの葉、ビオトープで泳いでいるメダカたち、土の中から顔を出す団子虫やミズに蟻たち。この季節は、子どもだけでなく大人も、心や身体がウキウキ・ワクワクしてきますね。

入園した子どもたち・進級した子どもたちも、この園庭や園舎の中でどんな楽しい事を見つけているのかなと保護者の皆様も子どもたちの様子や姿から想像されていることだと思います。4月からこども園での生活が始まり子どもたちは、毎日出会う先生や保育室、好きな遊びやお友だち等を通して少しずつ「自分の居場所」を見つけています。

初めは泣いていた乳児クラスの子も、ふと自分の視界に入った動くおもちゃにくぎ付けになり「見ているだけ」から手を伸ばし掴み「自分で」動かし始めました。その面白さや不思議さに「やってみたい・やりたい」という気持ちが沸き起こり、遊び出していました。そしていつの間にか先生の膝から下りていました。でもまたふと我に戻り、後ろを振り向き先生が確かにそこにいるか確認し「大丈夫だよ。ここにいるよ」と先生がほほ笑むと安心して遊び始めていました。

乳児クラスだけでなく、幼児クラスも同じです。年少クラスの子も数人と園庭に出ると、不安な表情から、どんな楽しいことが待っているのかなという期待の眼差しに変わりました。初めは先生が行く場所に一緒に行き、土山の斜面を滑りながら繰り返し登っては滑り台を滑っていました。でも「面白そう」「やってみたい」事を見つけると先生から離れ、ストライダーに乗って園庭を走ったり、スコップを探して土を掘ってみたり…それぞれが心動かされる遊びを見つけ楽しんでいました。その姿を見守っていると、「先生、いる？先生、見て！」の眼差しに。目が合うと、嬉しさと安心で遊びを続けていました。また、園庭の隅っこで遊ぶ年中の子も。二人でバケツやボールに砂や葉、水を入れお玉でかき混ぜ、何やらお料理中…。ふと目が合うと、「コーンスープ作ってるの」と嬉しそうに教えてくれました。そして、水場に一人が走っていき、水を入れたトロ船を運んで来ていました。もちろん、二人とも靴や洋服は泥んこですが、目がキラキラと輝き、この遊びに夢中になっていました。

5月は、子どもたちも手探り状態で、色々な事を試しながら1歩進んで、半歩下がるを繰り返しながら過ごしていきます。私たちも子どもたちの遊びを通して、何に面白さを感じているんだろう・どんな事に1歩を踏み出せずにいるんだろう・こうしたら遊びがもっと広がるかな等、子どもと同じ視点になり遊びや育ちを支え保護者の方々と共有し連携していきたいと思っています。一人ひとりが、「自分の居場所」を見つけ少しずつこども園での生活が豊かになっていきますようにと祈っています。そして、こども園での経験(成功だけでなく失敗したことも)が自信となり「生きる力」の土台となっていくよう子どもの育ちを支えていきたいと思っています。

5月2日(木)は六浦こども園出合いの日です。神様の守りと祝福の中で、子どもたちも、保護者の皆様もこども園での出合いが豊かになっていきますように。また、当日は保護者の皆さまも子どもたちと一緒に心も身体も開放され、楽しく過ごせるように私たちも準備しています。

副園長 松下成美